

第7回おおいだ活性化フォーラム 意見交換の概要

(講師・フォーラムメンバー等による意見交換)

九州財務局 大分財務事務所

DXの進め方

社員の
巻き込み方
・意識改革

(学識経験者) DXに伴う社員のロイヤリティ醸成

- ・会社を変えようと社長1人で頑張ってみてもうまくはいかない。
- ・会社全体を巻き込み、社員一丸となって会社を変革していくことが重要。
- ・社員も自分の出した意見が反映され、会社が少しずつ良くなっていく様を見ることで、「自分が会社の発展に貢献した」という自負につながり、会社へのロイヤリティ(愛社精神)醸成にもつながる。

(生活関連サービス業) 社員を人的資本と捉えなおす

- ・人手不足の時代を乗り越えていくためには、社員に「職場に満足した状態」で働いてもらうことが大事。
- ・経営層は、若い働き手を「会社にとって真に重要な資本」と再認識した上で、「どうやったら、若い人にもっと豊かに働いてもらえるだろうか」と真剣に考える必要がある。
- ・DXはあくまで戦略の1つであって目的ではない。
当社の目的は「地域にとって必要とされる企業にどのように変わっていくか」ということ。

(IT業) DXのビジョンを経営陣や社員で共有

- ・特に若い世代は、「いくら稼げるか」よりも、「自分の働く意味」(自分はなぜここにいるのか、何のために働くのか)を重視している模様。
- ・DXにおいても、「何のためにやるのか」「会社をどうしていきたいのか」といった意味合い、ビジョンが重要。会社としてのビジョンを社員にもよく理解して協力いただくことが大切。

企業間
連携

(IT業) 企業間で連携したDXの取組み

- ・一企業がDXに取り組むのはハードルが高い部分もあるが、複数社で集まって企業間連携していけば、DXの敷居はもっと下がると思う。
- ・いろいろな人と連携をして繋がっていく中で、思いもつかなかった新しいアイデアが生まれたりすることもある。

第7回おおいた活性化フォーラム 意見交換の概要

(講師・フォーラムメンバー等による意見交換)

九州財務局 大分財務事務所

DXによる業務効率化やビジネス創出のアイデア

DXによる 業務効率化

(社会福祉法人) 生成AI等を活用した業務効率化を検討

- ・ コロナ禍で、対面よりもメールやアプリを使ったコミュニケーションが増え、当社でも若い世代を中心にオンラインでのコミュニケーションツールの活用を進めている。
- ・ 生成AI等を使って、例えば過去のヒアリング結果の情報を集約化し、データとして活用できないかと考えている。

(金融機関等) 蓄積された情報のデータベース化を検討

- ・ 当社では、与信審査を行う際に人が過去のデータや数字をもとに審査を行っているが、今後はこういった情報をデジタル化できないか検討している。
- ・ 過去の情報をデータベース化して、モデリング審査へと移行していきたい。

ビジネス創出

(IT業) 先々を見据えた情報の活用

- ・ 今の時代は、リアルタイムでどんどん情報を活用していくという状況になっている。
- ・ そのような状況の中では、「昨日何を食べたか」といった過去の情報はあまり重要ではない。
- ・ 今、価値を見出されているのは、「今これから何を食べたいか」といった少し先の時点の情報。
- ・ ここに焦点を当てて、うまく活用していくというのが、これからのビジネスアイデアの一つとしてあると思う。

第7回おおいた活性化フォーラム 意見交換の概要

(講師・フォーラムメンバー等による意見交換)

九州財務局 大分財務事務所

人材の育成

DX人材の 確保・育成

(学識経験者) リスキリングによる人材の確保

- ・地方の中小企業がDX人材を新たに採用するのは、待遇や雇用条件的にも厳しい面がある。そのため、DX人材の獲得については、新規採用というよりも、今働いてもらっている社員にリスキリングによってデジタルスキルを獲得してもらう、という方が現実的。

(建築設備業) 公的施設を利用したリスキリング

- ・ただ単にデジタルツールを導入するのは、そこまで難しくはない。重要なのは導入したデジタルツールを使いこなせるよう、社員を育成(リスキリング)すること。
- ・当社では、独立行政法人のポリテクセンターに通ってプログラムのスキルを勉強させていただいた。上記のような公的な施設を利用できたのは、当社としても大変助かった。

(学識経験者) リカレント教育に対する国からの補助

- ・リカレントに取り組んでいる人に対して、国から授業料の補助等の援助があれば、もっとリカレントも普及すると思う。

(金融機関等) デジタル業務とアナログ業務のすみ分け

- ・デジタル化していく業務とアナログのまましていく業務のすみ分けを改めて考えることが重要。
- ・20年後には少子高齢化がさらに進展し、大分県の生産年齢人口も大幅に減少と言われている。少ない働き手でまわしていくためには、どの業務にどの程度人を充てるのかの見極めが重要。
- ・今から将来のビジョンを明確にして、人口減少の時代において、どのように会社を形作っていくのかを考えておく必要がある。

業務の すみわけ

DXのあい路 (ソフト面)

DXに対する
無関心・
高いハードル
(意識改革
の必要性)

(商工団体) 何から始めていいか分からない

- ・ 県内の企業でも「DXと言っても、まずはどこから何をすべきか分からない」という声が大半の様様。
- ・ たとえば、「DXの導入から実際の運用までの流れをまとめたパッケージ」のようなものがあれば、もっとDXに取り組みやすくなると思う。

(調査機関) 利益面での効果が分かりにくい

- ・ やはり企業は利益の追求が一番なので、DX導入による利益面での効果(メリット)をもっとわかりやすく、打ち出していかなければ、まだまだ企業の中でもDXを積極的に取り入れていこうという流れにはならないと思う。

(商工団体) DXに対する抵抗感や無関心の払拭

- ・ 事業者支援をしていると、若い企業はDXに対して抵抗感なく、柔軟に取り入れているが、ある程度業歴が長い企業の場合、DXに対して拒否反応を示す傾向にあると思う。
- ・ まずは事業者の中の「DXに対する抵抗感や無関心(自分には関係ない)」を変えていかなければならない。

(IT業) DXに対する意識変革

- ・ 昔と比べると、DX自体の敷居が下がり、中小企業でも十分取り組めるようなものになった。
- ・ ただ、まだ世の中の意識としては「DXは難しいもの、特別なスキルを持った人がやるもの」という意識が残っているように感じる。
- ・ 今後さらにDXを進めていくためには、デジタル教育のようなものが必要であり、世の中のDXに対する意識を変えていく必要がある。

DXのあい路 (ハード面)

メーカーが
異なるシステム
間の連携

(IT業) データ連携の仕組みの構築

- ・ デジタルイゼーションの実現には、システム間の連携が必要。
ただ、システムのメーカーが違くとシステム同士がうまく繋がらないこともある。
- ・ そのため、新たなシステムの導入を検討する際には、CSVのような「データを一旦すべて出力して別のシステムに繋げられる仕組み」があるかが重要。
- ・ データとデータを連携してくれるデジタルプラットフォームのようなものがあれば、もっと連携がスムーズになっていくと思う。

(学識経験者) 生成AIの活用

- ・ 別メーカーのシステムだと規格や仕様が違うため、どうしても使いにくさを感じる。
- ・ 去年あたりから生成AIについての議論が盛んにされるようになったが、上記のようなプラットフォームの違いを生成AIが吸収してシームレスに各システムをつなげられるようになるのではないかと、という話もあるようだ。